

令和2年度 十和田市立三本木小学校 学校だより 令和2年12月1日(火)

# 杉の子

No. 10

文責：校長

十和田市東三番町36-1  
TEL 23-7178  
特別支援教育センター  
TEL 23-9553

## 「育てる」ということ

校長 江渡 準 悦

11月下旬、私から「今年の漢字を当てよう」と題して子供たちに課題を出しました。『あなたにとって、三本木小学校での今年一年は、どんな一年でしたか?』について、漢字一文字で表すというものです。例えば、「今年は新しい友達ができよかった」と思っている子は、『友』という漢字を書くというものです。ご家庭に持ち帰って、家族で考えていた子もいたかと思います。

さて、子供たちが選んだ漢字には、「友」などのように、友達関係に係るものがありました。学校生活においては、友達関係で良好な思いをしている子もいれば、そうでない思いをしている子もいます。

そこで、学校では、子供たちが望ましい人間関係を築いていけるよう、授業中や休み時間の過ごし方、様々な学校行事等を通して、子供たちに人間関係を築いていく上で大切なことを学ばせています。

少し前ですが9月下旬に「ストップいじめ全校集会(分散)」を行いました。ねらいは、「友達関係で、何かが原因で腹が立つことがあると、友達に『怒りの感情』をぶつけてしまうことがあるが、できればこの怒りの気持ちをつかわずに、問題を解決することはできないだろうか。」について考え、実践できる子を育てることでした。この取り組みは現在も続いており、事後指導として10月は「怒りの心をぶつけないで、自分の気持ちを伝えよう」、11月は「きちんとあやまろう」、12月は「相手を傷つけずに意見を言おう」と、道徳科等との関連を図りながら進めています。

友達との良い関係を築くには「怒りの感情」を変身させ、どのように自分の気持ちを伝えれば良いのかについて、全校(分散)で話し合うことで友達関係が安定し、学級の雰囲気も良くなり、いじめを防止することができるのではないかと考えた取り組みです。今後も継続していきたいと思っています。

また、いじめについて、本校は「いじめゼロ」を目指していますが、まだ心身ともに成長段階にある子供たちですから、トラブルが全くないとは言えません。友達関係で少なからず嫌な思いをしている子もいます。本校では、こういった課題に対しては迅速に対応し、学級担任だけでなく速やかに関係職員で問題を共有し、対応にあたっています。

その中で、子供同士の中で起こるトラブルについては、子供たちが、将来社会に出て人間関係を築いていく上での一つの成長の糧と捉え、隠したり一方的に叱ったり、安易な解決を図ったりするのではなく、起きてしまったトラブルの原因や経緯をしっかりと子供と共に見極め、二度と起こさないように指導し、これを通じて、子供自身が解決する力を磨き、身に付けていくことが最も大切だと考えています。

お子さんのことで気になることがありましたら、学級担任を頼りにして、いつでもご相談ください。本校職員は全員、親身になってお応えしていきます。

# 絵本の世界に引き込まれて

10月から12月にかけて、ボランティアの方々による絵本の読み聞かせを行っています。朝の8時10分から20分という短い時間の中ですが、子供たちは、読み手の声に誘われるように絵本の世界に食い入っています。下記にここまでのボランティアの方々を紹介します。12月はまた新たに3名の方々が御協力下さいます。

❁ 読み聞かせのある日の朝は、ゆつたりとした気持ちの中で一日が始まります。

## 読み聞かせボランティアの紹介



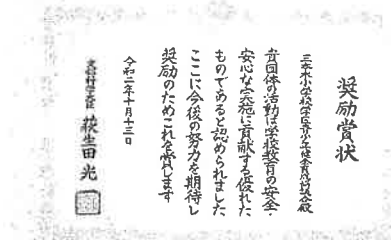
## 三本木小学区青少年健全育成協議会 文科大臣表彰

本校の標記の団体が、2020年度の文部科学大臣表彰『学校安全ボランティア活動奨励賞』を受賞いたしました。この賞は学校保健及び学校安全の普及と向上に尽力し、多大な成果を上げている学校、団体を表彰しているもので、県内では今回3個人1団体が選ばれました。

市役所で小山田市長様より賞状を受け取った佐藤会長は、「子供たちを思い、守るという会員の熱い気持ちが表彰につながったと思います。長年にわたる関係者の取り組みが評価されたことが嬉しい。」と語られていました。

また、会員の方からは、以前1年生で行った「昔遊び」の活動で、羽子板や剣玉、竹馬などの遊び方についても教えて(ビデオ録画)頂きました。

このように、本校の子供たちはたくさんの地域の方々に支えられながら、毎日を安心して過ごしております。



(写真は十和田市ブログ「駒の里から」より転載)